

若手研究者インターナショナル・トレーニングプログラム (ITP)

## 『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

### 平成 20 年度派遣報告書

——エジプト・カイロ大学、アラビア語——  
(H21.1.23 H21.4.12)

平成 20 年度入学  
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
博士課程 1 回生  
千葉悠志

#### 研究テーマ

エジプトでは 1952 年の革命以来、権威主義的といわれる政府が、メディアの統制と利用を図ってきた。伝統的に非識字率の割合が高いこの国では、プリントメディアに比べてラジオやテレビの重要性が高く、そのため特にこうした電子メディアは政府による統制・利用の対象とされてきた。70 年代以降に自由化が進んだプリントメディアと異なり、例えば地上派のテレビ放送は今日もなお全て国有のままである。

エジプトの政府は、メディアに対する統制や検閲などの「ハードな」メディア戦略を展開する一方で、番組の構成や内容に関わる「ソフトな」メディア戦略も展開してきた。たとえば、70 年に大統領に就任したサーダートは、顕在化してくる宗教復興に乗じて、自らの政策に合うような主張をおこなう宗教的知識人をテレビ放送に重用したが、これは人々のイスラームへの愛着心を利用したメディア戦略の一環であったといえよう。

本研究の目的は、20 世紀中葉以降のエジプトを対象に、エジプトの政治権力がその政治的レジティマシーを獲得すべく、いかなるメディア戦略を展開してきたのかを歴史的に明らかにすることにある。とりわけ 70 年代以降に顕在化してくる宗教復興とともに、エジプトの政治権力がメディアにおいてとりおこなった一連の宗教政策について考えてみたい。



ジューススタンドの店頭に張られたテレビ説教師のポスター

## 研修言語の概要

アラビア語は、中東から北アフリカにかけて最も広範に流通している言語であり、国連の公用語のひとつでもある。文語であるフスハーと、口語であるアーンミーヤが存在しており、両者には大きな違いが存在する。フスハーが公共放送などで用いられる標準語であるのに対して、アーンミーヤはいわば地域ごとに異なる方言に相当し、一般には日常会話で用いられている。

## 語学研修の内容

今回の語学研修では、提携校であるディーワーン校にて週5回、1日5時間（実際には休憩などを挟むと4時間30分ほど）のコースを受講した。授業は全てフスハーによって行われた（希望者にはアーンミーヤのコースもある）。今回の研修では、この5時間のうちの半分を通常の授業にあて、残り半分を自らの専門であるメディア関連の書籍講読にあてた。

通常の授業は、あらかじめ提携校によって準備されたテキストを用いておこなわれた。

授業は予習をした課について、意味の説明および教師による内容把握のテストが主であった。授業を開始した時点では、アラビア語で会話することは多大な困難が伴い、英語を補助言語として用いることが多かったが、最終的にはアラビア語のみでの会話することが可能となった。また自らの専門であるメディア関連の書籍講読を学校側に要請し、重要な単語やイデオロムなども学習することができた。



アラビア語の授業風景

## 研修期間中に印象に残った体験や経験

今回の語学研修における最大のメリットとしては、なんといっても現地で語学学習をおこなうことができたことである。授業で学んだアラビア語を、日常生活のなかで実際に用いることで、圧倒的に語学の習熟度を高めることができたように思う。昨年エジプトを訪れた際に出会った現地の友人たちとの交流を多く持ったことで、彼らに日常的にアラビア語を教えてもらう機会に恵まれたほか、宿泊所や食品店などで必要に迫られてアラビア語を用いたことも多かった。

上述のように、アラビア語にはフスハーとアーンミーヤがあり、エジプトの日常生活で用いられているのは後者である。一般の人々は、ニュースや新聞ではフスハーを解するものの、自らはアーンミーヤを用いて話す。そのため、こちらもどうしてもアーンミーヤを理解する努力をしなければならぬ。はじめはさっぱり分からなかったアーンミーヤも、帰国する頃には多少なりとも対応できるようになった。帰り間際に知り合いのおばさん（アーンミーヤのみを話す）からお別れの電話をいただいたが、しどろもどろになりながらも

無事そこでの会話を終えることができたことは、今回の語学研修のしめくりにふさわしい出来事であった。

### 目標の達成度や反省点について

今回の語学研修は、私の調査地であるエジプトでおこなわれたことから、自らの研究関連する文献収集や聞き取り調査をおこなうことができた。そうした調査は、授業で学んだアラビア語でおこなった。帰国する1週間ほど前に、過去の新聞資料を手に入れるべく国立図書館に数日間通うことがあったが、必要な手続きおよび会話をすべてアラビア語でおこなうことができたことは、今回の語学研修の成果の現われといえよう。また、アラビア語に対する抵抗感を払拭することができたことで、帰国後も積極的にアラビア語文献にあたることができるようになったことの意義も大きいように思う。



国立図書館